

1973年当時の茨城県蛇沼の水草

薄葉 満

Mitsuru Usuba : Aquatic macrophytes of Ja-numa, Ibaragi Prefecture, in 1973

本誌37:30(1989)で齊藤吉永氏が近年蛇沼の水草がまったく見られなくなったことを報告したが、蛇沼は私が水草研究をはじめた間もない頃に観察した比較的自然度の高い湖沼のひとつだったのでそのことが大変残念に思われてならなかった。私が観察したのは1973年10月10日のことであったが、当時の蛇沼はアカマツ林と原野に囲まれ、付近の経済活動といえば馬を飼う牧場があるぐらいなものだった。5万分の1地形図には生活道路から直接沼に通ずる道は示されていなかったの、地理不案内の私はその牧場の犬に吠えられながら藪漕をして岸边に辿り着いたのである。沼には1隻の小舟のほかには人影はなく、浮き葉を分けて漕ぎいずる感動はまさに藤村の「蓮華舟」そのものであった。いま、私の標本台帳と写真とからその時に観察できた水草を紹介してみよう。

挺水植物 ヨシ、カンガレイ、クログワイ

浮葉植物 ヒルムシロ、ホソバミズヒキモ、ジュンサイ、ヒツジグサ

沈水植物 ホッソモ、セキシウモ、コカナダモ、フサジュンサイ、イヌタヌキモ

これらの標本はすべて私が保管している。ところが上

記齊藤氏が1982年までの蛇沼の代表的な水草のひとつとしてあげたノタヌキモとコウホネは台帳にも写真にもない。タヌキモ類は1種と思い込み、コウホネなら福島県に沢山あるし標本にもしにくいので敬遠したものらしい。蛇沼のノタヌキモとイヌタヌキモは1972年に日本歯科大学の小宮定志博士も採集されている(ノタヌキモNDC 2462、イヌタヌキモNDC 3036)。このほか国立科学博物館には1947年10月17日に奥山春季・丸山尚敏両氏によって採集されたウキシバの標本が収められている(TNS 73313)。

以上のようにまず種類が豊富であること、ヒルムシロ・セキシウモなど低地の沖積地を代表する種の中にジュンサイ・ヒツジグサなどタヌキモを産する山地・丘陵の湖沼に多く見られる種を含んでいること。また一面ではコカナダモ・フサジュンサイといった帰化植物も侵入していることなどから当時の蛇沼には「低地に成立する比較的安定した弱酸性の水域であるが少しずつ都市化の影響をうけはじめていた湖沼」という印象があった。1980年代に入って急激に失われた蛇沼の植生はこの後いったいどこまで回復できるのだろうか。



図1 ジュンサイ、ヒツジグサ、ヒルムシロが混生



図2 セキシウモの純群落